

2016J2

■順位表■第14節(暫定)

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1*	1	札幌	29p	+11	17	6	H●
	2	岡山	25p	+8	23	13	AO
	3	町田	25p	+6	15	9	A△
	4	C大阪	25p	+3	15	12	
	5	山口	24p	+2	21	19	H●
	6	松本	23p	+8	16	8	H●
1*	7	京都	23p	+4	17	13	
	8	千葉	22p	+2	17	15	A●
	9	岐阜	20p	-4	18	22	---
	10	清水	19p	+3	17	14	H△
1*	11	横浜FC	18p	+4	17	13	
	12	讃岐	17p	-1	15	16	A●
1*	13	水戸	15p	0	11	11	HO
1*	14	愛媛	15p	-3	9	12	AO
	15	徳島	15p	-6	11	17	AO
1*	16	山形	14p	-1	12	13	
	17	東京V	14p	-8	10	18	
5*	18	熊本	13p	-1	7	8	
	19	群馬	12p	-3	15	18	A●
1*	20	長崎	12p	-7	12	19	
	21	北九州	11p	-9	11	20	HO
	22	金沢	10p	-8	12	20	AO

注：*のついたチームは消化試合が
前の数字だけ少ない(1*は1試合)

次回HomeGame

第16節 vs. V・ファーレン長崎
6/4(土) 13:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

Living in Woods
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけど..
心の花が咲く..
何も無い店だけど..
心癒される..
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : **モンテディオ山形**

2015 J1 4勝12分18敗 勝ち点24:第18位(年間通算)

直近の対決と結果

2014/10/04
J2 - 35節@長良川
岐阜 1-0 山形
難波宏明 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	モンテディオ山形
2016/05/22 J2 - 14節@フクアリ 千葉 3-2 岐阜	2016/05/22 J2 - 14節@NDスタ 山形 0-0 金沢
2016/05/15 J2 - 13節@Cスタ 岡山 0-1 岐阜	2016/05/15 J2 - 13節@長崎県立 長崎 1-1 山形
2016/05/08 J2 - 12節@長良川 岐阜 1-1 清水	2016/05/07 J2 - 12節@NDスタ 山形 3-1 群馬

●GW 3連戦の最終戦・5/8(日)第12節・ホームでの清水戦を1-1のドローで終えたFC岐阜。試合序盤にレオロシャのFKから阿部のヘディングが決まって追いつき、終盤には清水を圧倒することができたが、勝ち点3までには至らなかった。上位チームとの3連戦で勝利が得られなかったのは残念だが、2分1敗で勝ち点を積み上げたという結果は辛うじて及第点と言えるだろう。続いて上位チームとの対戦となった5/15(日)第13節・アウェイ岡山戦では、圧倒されながらも虎の子のPK1点を守りきって1-0での勝利。今シーズンはじめて、上位チームとの対戦で勝利することができた。勢いをつけるため連勝したいところだったが、5/22(日)第14節・アウェイ千葉戦は2-3で敗戦。後半は巻き返すことが出来た試合だったが、試合開始わずか10分での2失点が最後まで響いた結果となった。この結果、シーズン全42試合の3分の1、14試合を消化してFC岐阜の順位は現在9位。もちろん暫定順位だが、悪くとも11位だ。14試合を戦ってFC岐阜が上位グループにいるのはJ参入以来はじめてのことだし、積み上げた勝ち点20も記録を更新している。ただし、自動昇格~プレーオフ圏内も勝ち点6以内の射程に収めている一方、最下位までの勝ち点差も、わずかに10。昨年に引き続き、今年もJ2は大混戦の様相だ。今シーズンは「もう3分の1」だが「まだ3分の1」でもある。残り28試合を油断することなく、目の前の1試合に集中して勝ち点を積み上げていかなければ、足下をすくわれてしまうだろう。それに残念ながら、今年の岐阜は9位にいなながら失点22はリーグワースト。2014年同時点の20失点よりも悪い。特に、試合開始からわずか15分以内に計7失点、前半で計14失点を奪われているのは大きな問題だ。試合への入り方、まずはしっかりと守備を固めるための試合運びが求められているのではないだろうか。また、反則ポイントが多い、つまり警告や退場数が多いのも気になるところだ。ここ数年シーズンよりは若干減っているものの、今年も現在リーグワースト。シーズンが経過すると主力選手の出場停止は大きく影響する。これらに気をつけながら、今後もチーム一丸となってたたかってほしい。

さて、今節の対戦相手は現在16位のモンテディオ山形。昨年J1から降格し、選手を入れ替えて臨んだ今シーズン、序盤はなかなか結果が出ずに残留ラインを低迷していたものの、徐々に調子を上げて現在は3連勝を含む6戦負けなし。岐阜との勝ち点差は6だが、1試合を残しているため順位的には互角と見た方が良さそう。ここで負けると追いつかれる危険性もあり、油断はできない相手だ。通算対戦成績では3勝3分3敗、14得点14失点と互角。岐阜のホーム戦では2勝2分1敗、5得点4失点と若干有利な成績だ。前回の対戦である2014年第35節ホーム戦では、#24難波宏明のゴールで1-0と岐阜が勝利している。今回もゴールを、そして“難波劇場”の再演に期待したいところだ。一方の山形で警戒すべき選手は、ともに3得点を挙げている#8林陵平と#11ディエゴだろう。また、山形のゴールには#1山岸範宏が立ちはだかる。この強力な2トップのFWを封じ、そして“山の神”を越えなければ岐阜の勝利は見えてこない。また、かつて山形に在籍していた#1常澤聡や#8秋葉勝にとっては古巣との対戦だ。2人とも出場機会には恵まれていないが、その奮起にも期待したい。

次第に初夏を過ぎて暑くなってくる時期、夕方からのキックオフは選手たちにとってタフな試合になるだろう。しかしだからこそ、ホームの声援で選手たちを後押ししよう。なによりも、僕らはホーム・長良川での勝利を2ヶ月間見ていない。今節こそ、勝利の歓喜をホームで分かち合おう。(ささたく)

「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!
アドレスが変わりました
gidaidohri@gmail.com

【第12節】岐阜 1-1 清水

●サッカーを語るなかで、よく『格』という単語が出てくる。「格上に会心の勝利！」とか「格下に負けるとは！」とか、だ。じゃあ、『格』ってなんだろう？ということも、清水戦の前に少し考えていた。

ひとそれぞれでいいのだけど、ぼくは『格』とは「カテゴリー」のことだと定義している。つまり、「J2に落ちてきた清水と岐阜は「今年は同格」だ。しかし、やはり長い時間をかけて刷り込まれた『J1の清水』のイメージは強烈で、Jリーグのテレビ中継、それもスカパー！ではなくNHK-BSでよく見ていた清水の試合でよく流れていた伝統のチャントが、『対戦相手のもの』として大音量で聞こえてくる。やっぱり、どうしても「天皇杯？」とってしまうのは否定できない。「同格だ」とは思えていなかった、かもしれない。

早い時間に苅部のパスミスから相手にFKを与えて先制される（苅部のCB起用はOn the Job Training＝仕事をさせながら教育する＝に近いけれど、そろそろ少し安定してほしい）。まあ、見慣れた光景ではあるけれど、この試合はそこから違った。FKに阿部がヘッドで合わせて同点にすると、あとは「どっちに転ぶかわからない」試合展開に。高木義成のファインセーブがなければ負けていたし、碓井健平のファインセーブがなければ勝っていた。

技術（スキル）で清水に太刀打ち出来ていたとは思っていない。清水が『リアリスト』小林監督のサッカーにまだしっかり馴染めていない、というのはあったのは事実だが、太刀打ち出来ていたのは、監督が何度も口にして『気持ち』の部分だった。サッカーにおける武器は、「選手の技術」や「チームの戦術」だけではない。たとえば、その部分で劣っていても、いわゆる“勝ち負け”にまで持っていくことが出来る。この日の長良川の観客にはしっかり伝わただろう。胸を張って「岐阜と清水は『同格』だ」と返答できる試合だった。

（吉田鑄造）

●“オリジナル10”、しかもJ2に降格してきたばかりの清水相手に、どんな試合ができるのかしら…とあってたら、いきなりFKで失点。ただ、あれは明らかに#27 苅部の不用意なパスミスが原因だねえ…（溜息）。ただし、その後は安定した守備で清水の攻撃を防ぐ岐阜。やっぱりウチのブラジルトリオは、清水サポのサンバ隊が奏でるリズムで調子が上がっていったのかもしれないね（笑）。そして気をよくした？ #10 レオロシャの見事なFKを#2 阿部正紀がヘッドで合わせて同点ゴール！最初は#34 田中達也が押し込んだのかと思ったけれど、達也はオフサイドの位置&既に阿部のヘッドがゴールラインを割っていたのね…清水の選手もベンチも猛抗議していたけれど…あぶないあぶない（苦笑）。

ハーフタイムを終え…おお！ #4 岡根直哉が後半から投入か！元・清水（というか、大学時代に特別指定で3年間、入団してレンタルされてたけど4年間、清水一筋）だった岡根は相当に気持ちが…入ってますね、胸を激しく叩いて気合い入れてるもの。そして、その岡根が…アンカーなのかな？それとも3バックなのかな？に入って、岐阜のシステムはさらに機能する。前半よりもさらに激しい守備で清水の攻撃陣をくいとめ、攻撃陣はチャンスを作ってシュートを放つ。もちろん清水にもチャンスはあって、徐々にオープンな撃ち合いになってくるんだけど、お互いに追加点は許さない。その選手たちの気迫にヒートアップしていくスタジアム。そしてロスタイム…一瞬だけ#23 小野悠斗がゴール前でフリーになったシーン。僕らの目の前で、GKと1対1になったのが判ったものだから、シュートがGKに跳ね返された時の、僕を含めた岐阜サポの、膝からの崩れっぷりときたら（苦笑）。利き足じゃなかったけれど、あれは、あれは決めて欲しかったなあ…。しかし、そうやって一喜一憂するのもまた、サッカー観戦の醍醐味です（笑）。

「虐殺されてしまうかも？」と心配していた試合を、「あー引き分けて悔しい！」と思えさせてくれた試合。こういう試合を続けられるんなら、これからも今シーズンは比較的には楽しいシーズン？になるかもしれない、そんなことを思えた試合だった。

（ささたく）

●今日は「母の日」だからね？プレゼントはお母様に。少なくとも、向こうの選手にパスしちゃダメだよ？隆太郎くん。それが開始3分のこと。ピンチを救った磐瀬が黄紙もらったところへ出て来たのが、大前サンちのゲンキくん。なんか、もう実に見事なFK。ただ、自分の感覚的にはオウン・ゴールに匹敵する失点を目の当たりにして、札幌戦が脳裏をよぎったんだけど、逆にそれが幸いして清水の選手がナメてくれたのかな？もしかしたら、ウチの“肉を切らせて骨を断つ”作戦だったのかもね。惜しくも断ち損なった感じだが、今後はそういうの禁止。開始早々の失点がないと燃えてこないとかヘンな芸風は身につけないでね？

それにしても、清水の選手は個人個人の技量が高いな。特に、リーグのトップ・スコアラーである大前の動きは普通じゃなかった。ウチのDFラインの裏へ出たボールをキープしたバンディエラをチェイスして、その背中を右へ左へ動き回り、あわよくば死角から出し抜こうとするところなんか敵ながら見とれてしまったほどだ。そういうプレーが随所に見られた。見られたんだけど……。怖くない。組織として、何をやろうとしているのかがよくわからない。その辺が、今ウチと試合をしている所以なのかもしれない。監督が小林さんになっても一朝一夕には変わらないのか。じゃあ、某クラブが相も変わらずなのは仕方ないのか、とも思ってしまう。

それにしても、ウチの同点弾は誰が決めたのか？得点者があんなに長い時間表示されないのは珍しいよね。正直ジャッジに救われたのかもしれない。審判の判断は大事だよ、やっぱり（笑）そして、その後の展開はほぼ五分五分、と言ったら臍の引き倒しに過ぎるかな。でもなあ、あそこまでいったらしっかりゴールを決めておこう、悠斗。アレ決めてたらゼツタイ道が開けてたハズ。後半はものすごく白熱した展開になって、盛り上がって来ていた中でアレを決めてたらスタジアム全体がどうなっていたか。あの、オリジナル・テンの清水と引き分けてゼイタク言っちゃイカンとも思うが、勝ち切る絶好のチャンス、名を挙げる千載一遇の機会。いや、もう、本当にもったいなかった。本当にもったいなかった。

それでも、厳しい日程の黄金週間。しかも、山口、町田、清水という上位、好調クラブとの連戦で勝ち点2は上々。この勝ち点はいずれも追いついて得たモノ。相手の勝ち点をそれぞれ2点奪ったとも言える。ワルくない。あとはそれを有効に生かすだけ。この後は岡山、千葉とアウェイ連戦が続くけど、しっかり戦ってほしい。まずは岡山戦も現地に駆けつけます。よろしくネ！

（ぐん、）

【第13節】岡山0-1 岐阜

●岡山との対戦は、2013年のアウェイ勝利以来、0勝2分2敗。しかも…ええと、今は桃太郎スタジアムでもkankostad stadiumでもなくて、昨年からシティライトスタジアムって言うんですよ（笑）…では2連敗。今年も好調・岡山を相手に厳しい試合になることは覚悟したんだけど、こんなに心地よく、そして激しく疲れる試合になろうとは…（苦笑）。『晴れの国』を自認する岡山だけあって、試合開始前からしっかり晴れてしっかり暑い。これで14時キックオフは相当に体力を消耗する環境。少しは風が吹いたり曇り空にもなったけれど、それでも選手たちには厳しいピッチだったろう。実際、ホームの利とばかりに試合序盤から攻め立てる岡山。けれど今節は（も？）集中している岐阜の守備陣。何度かの大ピンチも何とかしのいでゴールを割らせない。だけど攻撃は手薄になってしまい、前半に惜しかったのは#34 田中達也のポストを叩いたシュートぐらいだったかな？さて、後半はどうなるか…と思ってたら、右サイドで再三チャンスを作り出していた田中達也が岡山DFとGKの間に抜け出して、ペナルティエリアで倒されてPK獲得！これを#9エヴァンドロが決めて先制！この後は、攻撃のギアを上げた岡山の攻撃を、再び我慢しつつ岐阜がしのぐ展開に。何度、岐阜のゴール前でネットが揺れてもファウルの笛が鳴り、何度、岐阜のゴールポスト&クロスバーをシュートが叩いたんだらう？（苦笑）それでも、粘り強く失点を許さない岐阜の選手たち。試合終了の笛が鳴った時は、勝った喜びよりというも安堵の方が、僕には大きかったです、はい（笑）。

強敵・岡山にアウェイで勝利した喜びと大事な勝ち点3。ただし少し苦言を呈するならば、先制した後に不用意にボールを奪われてピンチを迎えるシーンが散見されたように感じた。もちろん零封したのだから結果オーライだし、この暑さに最後の方はバテてたのかもしれないけれど、もう少し、したたかに時間をかけて1点を守りきる試合運びができれば、と思う。

ともあれ、内容の良くない試合でも勝利を奪えるのは大事なことだ。この経験を生かして、今後も上位を目指して戦ってほしいね！

（ささたく）

●ボクは岩政という選手がキライだ。どれくらいキライかというと、この試合のPKの場面で既にエヴァがセットしてるのに、ひとりチンタラと給水をしていた岡山の6番が、あろうことかボールをこれまたチンタラと横切って戻ってくる様子を見て、「これも岩政の指示に違いない。そうに決まってる。」と思えるほどだ。後半にも接触プレーに対し、主審とのコミュニケーションというより抗議してるように見えたシーンでも「サッサとプレーしろよ。」と思ってしまう。元は、と言えば彼がJリーグで最初に所属したクラブがキライなのが大きい。当時の彼の言動にも面白いモノがあったとはいえ、若干八つ当たり気味なところもあるかもしれない。いずれにせよ、ただのヨッパライの戯言ではある。彼もいちいち気に留めないだろう（笑）。

ま、冗談はさておき、この試合を総括すると、共通の認識と戦略を持ってグループとして戦ったチームが個人に頼った行き当たりばったりのチームに負けたという気がする。ウチの方は“戦術・タツヤ”、あとはエヴァとかレオロシャとか。そして、最後はバーとポストに救われた。お世辞にも、連動とか組織的とかいう意識は感じられなかったよ。前半の、ことごとくセカンドボールを拾われていた時間帯に失点していたら、ひとたまりもなかった。そんなギリギリのところを守備陣がよく踏ん張ったと言える試合。岐阜サポが陣取る位置からはこちらのオフサイド・ラインがよくわかる。いずれも、しっかり集中してオフサイドを取ることが出来ていた。副審の右腕は普段の倍以上仕事をしたんじゃないかな？そして、こん

なにキッチリとオフサイドを取れたのはどうしてか？最終ラインのメンツが変わったから、というのはあながち穿ち過ぎとは思わないけど、どうだろう？ボクとしては、このまま岡根にCBを任せるためにも早いとこアンカーの位置に田森や秋葉が戻ってきてくれるとウレシイんだけどな。

なんにしても、こういう押し込まれることが多かった試合をしのぎ切り、しかも勝ち点3を取れたのは大きい。それも1-0で。変な芸風になりつつある開始早々の失点さえ押さえられれば、それなりに戦える。この試合で得たモノを力に変えて、次節に臨んでほしい。

帰りの新幹線まで時間がなかったので、終了と同時にスタジアムを出てタクシーを拾った。乗り込んだ車内に流れるスポーツ実況。野球かと思ったら、ウチと岡山の試合だった。運転士さんに聞いたら、毎試合やってます、と。他に大きなスポーツがないから、と笑っていたが、正直うらやましい話だな、と。しかも、今季はなかなかホームで勝てないんです、と。こういう話ができる岡山。この試合の観客は9千人超。スタジアムの内外でアツく盛り上がってれば、試合に臨む選手達の意気もまた上がる。いい循環ができていな、と思った次第。負けてられないな。

（ぐん、）

【セカンド】東海L、開幕です

●FC岐阜セカンド（以下『セカンド』）は、いよいよ5/7から始まった東海社会人リーグ1部に参戦しています。昨年の王者で『地域決勝』決勝ラウンドまで進出した刈谷に、大ラッパを吹き鳴らして2部から昇格してきた三重・伊勢志摩に強豪・鈴鹿の「三重3連星」と強敵揃い。へたしたら残留争いに巻き込まれるかも？と心配しましたが、現在3試合を終えて2勝1敗。前節は上に挙げた4チームとの初対戦でしたが、鈴鹿とのホーム戦は1-4の完敗。観戦者によると「内容的にも納得」のスコアだったそうです（ためいき）。

明日（5/29）にはホーム・笠松の岐阜フットボールセンターに王者・刈谷を迎え討ちます。上位陣から離されないためにも、健闘を期待しましょう。

（吉田鑄造）

【第14節】千葉3-2 岐阜

●今シーズン、もう何回目になるんだろう…勝負に「たられば」は禁物だっけのは痛いぐらいに判ってはいても、それでも、つい「試合の入り方がよかったら」って思ってしまうのは…(溜息)。#15 田森大己が2ヶ月振りに復帰してスタメンだっていうんで、僕は4連勝した時のように、田森をアンカーに置くシステムで千葉に臨むんだと思ったんだけど、試合開始時は2ボランチ。それで中盤が安定するのかな？って少し不安に感じてたら、残念ながら不安が的中してしまい、守備が安定せずに試合開始10分で立て続けに2失点。その後も1トップにボールが繋がらないしセカンドボールは拾えないし何度もピンチを迎えるしで、前半は千葉に圧倒された。ただ、後半頭から#36 瀧谷亮を投入して(そして多分アンカーシステムに変えて)、シンプルに1トップに当てる戦術、それは4連勝した時の戦術と同じか近いものと僕は感じたんだけど、これが機能するのよね(苦笑)。後半立ち上がりすぐに田森のヘッドで1点を返して、ほぼ互角の流れに。チャンスもあったし、ピンチもあった。1点獲られたけれど、すぐに#6 高地系治が獲り返して攻勢を強めることも出来た。でも、試合開始10分で失った2失点が痛すぎた。もちろん、サッカーは後半45分だけではなくて前後半90分でするものだし、後半だけなら可能なことが、90分間は実現できない場合もあることも判る。前半が悪くても後半には修正できているのも心強い。でも、だからこそ、「もう少し前半が良かったらなあ…」って思ってしまうのだ。千葉に勝てたかもしれない、それも、千葉ホームのフクアリで、だ。なんかモヤモヤするけれど、しかしこれもサッカー。2得点できたことを良い材料と思って、それと前半の戦術は反省して(苦笑)、次の試合に繋げて欲しい。次は頼むよ！

(ささたく)

●後半開始から瀧谷を入れてピッチ内の交通整理を図った。そしたら、それがハマって早いうちに一点差。さあ、次の一点をどちらが入れるか？だったが……。ナリさんもよく触ってくれたが、無情にもボールはゴールへ。それでも粘って高地のゴールで再び一点差にしたけど、あと一歩及ばず。利き足じゃない方の左でビックリするようなスルーパスを送って、高地をアシストしたバンディエラが負傷退場。そんな数数的不利の中でも、あわや、の場面をいくつか演出してくれたからTV観戦してる身としては面白かった。だけどね。サポの端くれとしては納得できないし、もちろん満足などできようはずもない。ことさら、現地組にとっては実に悔しい敗戦だったんじゃないだろうか？試合開始早々に失点、そして追加点。そんな苦しい展開の中でも諦めずに最後まで声援を届けてくれたからこそ、あの追撃が出来たんだと思う。フクアリに参戦した岐阜サポに敬意を表したい。

しかし、サッカーは難しいね。デリケートだね。後半アタマから瀧谷を入れただけで攻守の主導権が変わってしまう。2点もリードしてる千葉が精彩を欠いて、なぜだか前半のようなプレーが出来なくなってしまう。一試合を通してやりきることは至難なことだな、と思った次第。しかし、この試合はいい、どういう意図、戦略で臨もうとしたのだろう？フリーにゆらゆらしてるエヴァを、有効に活かすにはどうしたらいいのか。それに対する答えがあるのか、ないのか、わからないまま失点。結局、前半のシュートは2本。相手のGKを動かすこともできなかった。逆に、よく2点でこらえたな、と。それが後半の反撃を生んだのかもしれない。だが、試合開始早々の失点を今季は何回見なければならぬだろう？失点数は再びリーグ・ワーストに返り咲いてしまったのかな？この試合も、それが展開を困難にしまった。己の首を自ら締めてしまうような失点。そんなことしているから、エヴァの活かし方もブルーノとの連携もあやふやなままになってしまう。わざわざ後手に回らなくてもいいのにな。

ここまで見てた素人目には、ワントップなら瀧谷。エヴァやブルーノなら2トップ。そんな気がするけど、指揮官にはどういう意図があるんだろう？そろそろ、戦術の型も固めていった方がいいように思うんだが。もしかして、夏までいろいろ模索していくつもりなのかな？

しかし、復帰即スタメンで移籍初ゴールを決めてくれた田森、そしてバンディエラの負傷具合はどうなんだろう？二人とも重要な存在だけに気にかかる。次節が土曜日の試合だし、なんとか軽傷でありますように……。次は久々の長良川。選手を全力で鼓舞したい！共に戦いましょう！！(ぐん)

【ユース】リーグ戦も開幕、など

●我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)はGW中にクラブユース選手権1試合とG1リーグ2試合を戦いました。

まずはクラブユース選手権。静岡県で行われた1次リーグ最終戦の相手は愛知FC。ここまで全勝チーム同士の対戦となりました。前半2点リードを許してしまい苦しい展開になりましたが、後半なんとか追付いて2対2のドロー。得失点差の関係でFC岐阜ユースは1次リーグを2位通過となりました。続いてG1リーグの方は5/5の第2節大垣工業戦、5/7の第3節東濃実業戦を戦いました。結果はFC岐阜ユース3対0大垣工業、FC岐阜ユース11対0東濃実業と2連勝！第3節まで終了して2勝1分0敗の勝点7で堂々のリーグ2位です！！何より3試合で無失点ってのが良いですね。

さて次の試合はG1リーグは6/11(土)開催予定の第4節長良高校戦です。会場は長良川球技メドウで13時KO。一方のクラブユース選手権は6/12(日)に静岡県竜洋で予定されている最終トーナメントになります。最終トーナメントの詳細については次回お伝えします。

6/11はトップの試合も有りませんので、良ければ観戦・応援に行っておいて下さい。頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間に変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やクラブユース連盟、チームの公式サイトで確認して下さい。

(シュナ)

●今月発売された雑誌『フットボール批評』の最新刊にFC岐阜の永久欠番に関する記事が載っています。

FC岐阜では全てのチームカテゴリーで「13」が永久欠番になっています。2010年、当時ジュニアユースに所属していた桐山周也君がチームの遠征の際に立ち寄った海水浴場での水難事故で急逝しました。翌年チームは事故再発防止を誓う意味を込めて彼の背番号「13」を永久欠番にしました。今回の記事は当時の状況やその後を周也君のご両親やチーム関係者に取材してまとめられた物で、私は泣きながら読みました。私たちはこの事を決して忘れてはいけませんが、この文章を読んだ救いはご両親がその後もFC岐阜の試合を見に来てくれている事でした。

(ヤックル)